

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	アレッタ児童デイサービス井土ヶ谷		
○保護者評価実施期間	2025年12月1日		～ 2026年1月17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	58	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	2026年1月19日		～ 2026年3月4日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月4日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者様からの全体的な満足度が高く、特に「活動プログラムが固定化していない」という点で高い評価をいただいています。 調理体験や将来の就労を見据えたプログラムを提供していることが、子どもたちの通所の楽しみや保護者様の安心感に繋がっている。	プログラムがマンネリ化しないよう、毎月新たな活動を企画・実施しています。また、日々の支援においては毎日朝礼と終礼を行い、当日の役割分担や支援の振り返り、気付きを全職員で共有しています。記録も全職員が閲覧できる状態にし、質の高いプログラムをチーム全体で提供できるような体制づくりを意識的に行っています。	調理プログラムに関して「もう少し子ども自身で調理を経験できれば嬉しい」というご要望を踏まえ、今後は子どもたちが主体的に関われる工程を安全に配慮しながらさらに増やしていく予定です。就労に向けたプログラムも年齢や発達段階に合わせてより細分化し、子どもたち一人ひとりが「できた!」という達成感をより多く味わえるよう、質を高めてまいります。
2	肢体不自由のお子様向けに各所で配慮したバリアフリー化を行っており、保護者様からも高い評価をいただいています。また、防犯カメラの設置による虐待防止の意識付けや、個人情報の鍵付き書庫での厳重管理など、子どもたちが安全に、そして保護者様が安心して預けられる環境・設備がしっかりと整っている。	施設内の安全確保のため、防犯カメラを設置し、職員自身が見られているという意識を常に持って支援にあたるよう徹底しています。また、非常災害の訓練は6月と12月に定期的に実施し、緊急時や感染症対応のマニュアルは契約時に保護者様へお渡しするとともに、事業所内でもいつでも閲覧できる状態を保ち、安全意識の共有を図っています。	現在のバリアフリー設備や安全対策を維持しつつ、活動スペースに関して「もう少し広いと有難い」というお声もあるため、現在の空間をより広く、効果的に使えるようなレイアウトの工夫や整理整頓を進めます。また、避難訓練の際には、より実践的なシチュエーションを想定した訓練を取り入れ、スタッフの対応力をさらに向上させていきたいと考えています。
3	契約時の丁寧な説明や、アプリを活用した情報配信などにより、保護者様との情報共有が非常に良好に図れている点です。日頃から子どもの状況を伝え合い、共通理解を持っているかという項目でも「はい」の回答が多く、保護者様からの厚い信頼を得ており、安心して通っていただける関係性が構築できています。	ご契約の際には、運営規程や支援内容について特に丁寧に説明し、ご納得いただいた上でご利用いただけるよう努めています。日々の活動予定や連絡体制などはアプリを通じて迅速に配信し、ご相談があった際にはお電話等でこまめに対応することで、保護者様の不安を少しでも軽減できるよう、密なコミュニケーションを日頃から意識して行っています。	現在の良好な関係性を土台としつつ、今後は送迎時やお電話でのやり取りだけでなく、お子様の小さな成長や変化をより具体的に、タイムリーにお伝えできるような工夫を取り入れていきます。また、ご意見や苦情があった際には迅速に責任者より謝罪し体制を整えるという現在のフローをさらに研ぎ澄まし、より一層信頼される事業所を目指してまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会の活動支援や保護者会等の開催について、「いいえ」「どちらともいえない」という回答が多く、保護者様同士の横の繋がりを作る機会が不足している点です。また、事業所の行事に地域住民を招待するなど、地域に開かれた事業運営についても実施できておらず、外部との交流機会の少ないこと。	最大の要因は、感染症対策として密集・密閉を避ける必要があったことです。子どもたちの健康と安全を最優先に考えた結果、保護者様にお集まりいただく会や、地域の方々を招いたイベントの開催を見送らざるを得ない状況が続いていました。また、「必要性を感じていない」という保護者様のお声もあり、無理に開催しなかったことも要因の一つです。	密集を避けるためのZOOM活用などのノウハウを生かし、オンラインでの気軽な保護者交流会や意見交換の場を企画してまいります。「必要性を感じない」というご意見にも配慮し、参加を強制せず、例えば「就労に向けた準備」や「家庭での関わり方」など、保護者様が「参加してみたい」と思えるようなテーマを設定した有意義な会合を少しずつ提案していく工夫で実施していきます。
2	放課後児童クラブや児童館との交流、障害のない子どもたちと活動する機会について、「どちらともいえない」が多くを占め、十分な機会を提供できていない状況です。施設内でのプログラムは充実しているものの、一歩外に出て多様な他者と関わり、社会性をさらに育むための地域社会との接点が不足している。	学校等との連携は行っていますが、児童館など地域の一般施設との連携体制が未構築であることが要因です。また、保護者様から「交流は特に必要性を感じていない」「参加した事がない」というご意見もあり、事業所として「なぜそのような交流が必要なのか、子どもたちにどんな成長の機会をもたらすのか」という目的を十分に提示・説明できていなかったことも要因と考えます。	まずは近隣の児童館や公園での活動など、少人数で短時間から始められる外部との接点作りを検討します。その際、ただ交流するだけでなく、それが子どもたちの社会性や将来の自立にどう繋がるのか、プログラムの狙いを保護者様へ事前にはっきりお伝えすることが重要です。無理のない範囲で、地域社会の中で子どもたちが経験を積めるようなスモールステップの企画を立案してまいります。
3	子どもの活動スペースについて、「はい」と回答していただいた方が多い一方で、「もう少し広いと有難い」という具体的なご要望をいただいております。利用者定員とスペースの関係自体は適切であると自己評価しておりますが、のびのびと体を動かしたり、複数の活動を同時に行うには、空間的なゆとりがやや不足している。	建物の構造上、面積を急に拡大することが物理的に難しいことが一番の要因です。また、バリアフリー化を進め、スロープ等の移動スペースを確保している分、自由に使えるフリースペースが制限されてしまっている側面もあります。様々なプログラムに合わせた機材や備品が増える中で、空間の圧迫感を生んでしまっている可能性も考えられます。	空間を物理的に広げることは難しいため、レイアウトの大幅な見直しや不要な備品の整理整頓を徹底し、デッドスペースを有効活用する工夫が必要です。また、室内の広さに制限がある分、天気の良い日には近隣の公園等の屋外スペースを積極的に活用し、子どもたちが思い切り体を動かして発散できるような、活動場所のメリハリをつけたプログラム運営を心がけてまいります。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 アレッタ児童デイサービス井土ヶ谷

公表日 2026年3月17日

利用児童数 58名

回収数 21名

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	17	4	0	0	・もう少し広いと有難い。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	20	1	0	0		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	16	5	0	0		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	16	5	0	0		
適切な支援の提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	17	4	0	0		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	19	2	0	0		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	20	1	0	0		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	15	3	0	3		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	20	1	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	19	2	0	0		
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	9	10	2	0	・交流は特に必要性を感じていません。 ・我が子は参加した事がない。	交流の必要性はご家庭ごとに異なるため、希望を確認しながら参加しやすい機会をお知らせします。
保護者への説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	20	1	0	0		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	21	0	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8	8	5	0		ご家族向けの情報提供や相談の機会を増やし、無理なく参加できる形でご案内します。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	20	1	0	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	18	3	0	0		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	20	1	0	0		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4	10	7	0	・今のところ必要性を感じていません。 ・参加した事がない。	保護者同士やきょうだい同士の交流は希望を確認しながら、参加しやすい機会を検討します。

	19	子どもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	16	5	0	0		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	19	2	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	16	5	0	0		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	20	1	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	17	4	0	0		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	19	2	0	0		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	17	4	0	0		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	19	2	0	0		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	19	2	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	18	3	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	19	2	0	0	・調理の提供はありがたい、子どもによってたと思いが、もう少し子ども自身で調理を経験できれば嬉しい。 ・就労に向けたプログラムがある事に感謝しています。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	アレッタ児童デイサービス井土ヶ谷				公表日	2026年3月17日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		児童人数2.5人に対して1名の職員を配置しております。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		<input type="radio"/>	肢体不自由の方向けに各所配慮しております。	こどもにわかりやすい環境の作り方を見直し、必要な配慮を順番に整えます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		密集等を避けるためZOOM等でも実施しております。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		<input type="radio"/>		日々の様子を見ながら確認の方法をそそえ、支援に生かせる形で記録します。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>			

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		毎月、新たなプログラムを実施しております。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎日朝礼を実施しております。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		毎日終礼を実施しております。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		当日支援を行った職員にて記録をとっております。また記録として全職員が閲覧できるようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	○			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児発管にて参画しております。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			学校との連絡方法を見直し、必要な情報を早めに共有できるようにします。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			利用開始前の関係機関との引継ぎを丁寧に行い、支援につながる情報を共有します。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			進路先へ必要な情報を引き継げるように、移行時の流れを整えます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			地域の関係機関とつながる機会を増やし、助言や研修を受けられる体制を整えます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		可能な機会が少ない事で出ていない	地域のこどもと関わる機会は、無理のない形で実施できる方法を検討します。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○				
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			ご家族向けの学びや相談の機会を増やし、必要な情報をわかりやすくお伝えします。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		特に契約時にご説明しております。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		ご相談があった際はお電話等にて行っております。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○		保護者同士がつながれる機会について、希望を確認しながら実施を検討します。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		迅速に責任者より謝罪し体制整備しております。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		アプリにて配信しております。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		鍵付きの書庫にて管理しております。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		地域との関わり方を見直し、事業所を知っていただける機会を少しずつ増やします。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		保護者様には契約時にお渡しし、事業所には閲覧出来る状態にしている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		6月と12月に実施しております。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		保護者様より指導していただいております。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		防止対策としては防犯カメラを設置する事で見られている意識を持ち支援を行っております。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○				